

大漁たいりょう

朝焼小焼あさやけこやけだ 大漁たいりょうだ。

大羽鰹おおばいわしの 大漁たいりょうだ。

浜はまはまつりのようだけど

海うみのなかでは何万なんまんの

鰹いわしのとむらいするだろう。

金子みすゞかねこ

「おくの細道」冒頭ほそみち ぼうとう

松尾まつお 芭蕉ばしやう

月日つきひは百代はくたいの過客かかくにして
行きかふ年も又また旅人たびとなり
舟ふねの上うへに生涯しやうがいのをうかべ
馬うまの口くちとらへて老おいをむかふる者ものは
日々ひび旅たびにして旅たびを栖すまとす

枕草子まくらのそうし

清少納言せいしょうなごん

夏なつはよる。

月つきの頃はころはさらなり、やみもなほ、

ほたるの多くおほ飛びとびちがひたる。

また、ただひと一つふた二つなど、

ほのかにうちひかりて行くゆもをかし。

雨あめなど降ふるもをかし。

夏なつは夜よがよい。
月の晩ばんは言いうま
でもないが、暗くらい夜よで
も、たくさんの螢ほたる
が飛びかたり、あ
るいはほんの一いち匹びつ
二匹にびつ、ほのかに光ひかり
りながら飛とんでい
るのを見みると風情ふうせい
を感じる。雨あめが降ふ
っているのも、良い
ものだ。